

動き出したIRの可能性をアピール

関連企業との商談会でビジネスチャンスも

国内旅行や訪日旅行の拡充へ

10月24日から27日までの4日間にわたり、大阪・南港北のインテックス大阪とその周辺で開催されるツアリズムEXPO

ジャパン(TEJ)2019大阪・関西「主催」日本観光振興協会(JTTA)・日本旅行業協会(JATA)・日本政府観光局(JNTO)では、IR(統合

型リゾート)関連企業とツアリズム関連事業者との商談会の場ともなるIRゲーミングEXPO2019が併催されます。

昨年7月、特定複合観光施設区域整備法(IR実施法)が成立し、国による計画認定を条件に全国でIR施設を整備できることになりました。

同法は、IR施設について「国内外からの観光旅客の来訪及び滞在の促進に寄与する施設」と定めており、国内・訪日旅行の拡充へ期待も高まっています。また、「ギャンブル依存症」などの懸念も根強い

ため、施設の総面積に占めるカジノ区画の割合やカジノ区画に入場する際の入場料賦課、一定期間における入場回数なども規定。さらに、健全運営や有害な影響排除のため、事業者が連携して協力するよう求めています。

ツアリズム産業の一翼を担う

IRゲーミングEXPO2019に出展するギヤラクシーエンターテインメントジャパンの岡部智総支配人は、「旅行業界の方々や一般来場者の皆さんにIRへの理解を深めていただく上で非常に貴重な機会となる」と同EXPOへの期待を表明。国内各地に展開される見通しのIR施設を通じて「交流人口の拡大を通じて地域振興をはじめ、地元企業など様々な関係者が参画する新たなビジネス機会の創出なども進むことになる」と語り、日本国内におけるIR事業の可能性を強調しています。

香港に本拠を置くギヤラクシーエンターテインメントグループは、マカオでフラッグシップのIR施設を運営しており、日本の魅力を生かした統合型リゾートの開発も目指しています。

また、ツアリズムEXPOジャパン推進室の早坂学室長は、IR施設の誕生が「国際旅行市場におけるデスティネーションとしての日本の競争力強化にも資するもの」と指摘、地域振興への貢献に期待をにじませます。「多くの旅行業界関係者にも来場していただき、旅行業界としてIRを活用したビジネスモデルづくりや内外からの旅行需要拡大に向けたイメージを共有していただければ」と呼びかけています。IRゲーミングEXPO2019では、「日本版IRのあり方」や「依存症対策」に関連するテーマのセミナーも開催される予定です。



大規模なIR施設はそれ自体にデスティネーションとしての存在感も(写真は「ギヤラクシー・マカオ」)



ギヤラクシーエンターテインメントジャパンの岡部智総支配人

香港に本拠を置くギヤラクシーエンターテインメントグループは、マカオでフラッグシップのIR施設を運営しており、日本の魅力を生かした統合型リゾート

の開発も目指しています。また、ツアリズムEXPOジャパン推進室の早坂学室長は、IR施設の誕生が「国際旅行市場におけるデスティネーションとしての日本の競争力強化にも資するもの」と指摘、地域振興への貢献に期待をにじませます。「多くの旅行業界関係者にも来場していただき、旅行業界としてIRを活用したビジネスモデルづくりや内外からの旅行需要拡大に向けたイメージを共有していただければ」と呼びかけています。IRゲーミングEXPO2019では、「日本版IRのあり方」や「依存症対策」に関連するテーマのセミナーも開催される予定です。

岡部総支配人は、世界水準の本格的なIR施設が国内各地に展開されることで「今まで訪日機会の少なかった欧米からの富裕層が一気に増える可能性もある」と展望。「新たな訪日旅行スタイルの形成にも貢献できるだろう」と語り、ツアリズム産業の一翼を担う存在としてのIR事業者の役割もアピールしています。